

あれから320年

中央義士会報

創立明治41年

令和5年12月発行 No75

目次

中央義士会理事挨拶	松根大地住持	1
中央義士会理事挨拶	遠藤信夫、進藤務	2
泉岳寺と英公使館	蟹江元	3
大名庭園シンポジウム	進藤務	7
泉岳寺ガイドはじまる	柿崎輝彦	8
福本日南墓前法要	萩原栄	8

新常務理事就任ご挨拶

松根大地 住持

中央義士会の会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

令和四年より中央義士会の理事に就任いたしました萬松山泉岳寺住持（住職）松根大地と申します。浅学非才の身でございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

当山が冷光院殿吹毛玄利大居士（浅野長矩公）、瑤泉院殿良瑩正澄大師、並びに赤穂義士の墓所をお護りしてから、約三百年の時間が経とうとしております。その間、子孫の会、中央義士会、歴代住職の御尽力や赤穂義士たちを慕う方々に支えられ、時代の波や戦火を潜り抜けて現在に至っております。私はその想いを引き継ぎ、未来永劫護持して参る所存です。墓所をお護りすることとは、単に墓地を護ることではなく、どんなことが起こり、なぜ切腹し、なぜ討ち入ったのか、その時、浅野公は、義士は何を思ったのか、図り得ない問いを後の世に残していく、伝承していくことでもあると考えております。

当山では月に一度、中央義士会主催の勉強会が開催されております。また講談協会と日本講談協会共催の「泉岳寺講談会」、日本浪曲協会主催の「泉岳寺浪曲会」の催しを行って

九州紀行	柿崎輝彦	9
浅野内匠頭長矩と赤穂義士の気持ち	松岡康彦	12
忠臣蔵講座の案内		13
引揚げコースを歩く	進藤務	14
会務報告		15
全義連総会・新人会員紹介他		16

り、赤穂義士の伝承の場となっております。

赤穂義士は、講談や歌舞伎の忠臣蔵、テレビドラマ、映画などで多く描かれ、親しまれてきました。義士のことをもっと知って頂きたい、そのために何ができるのか、日々模索しております。

講談を聴いておりますと、江戸時代にタイムスリップして、江戸の町の人々になった気分になって参ります。当時、どのように義士たちは受けとめられ、語られたのか、まだまだ不勉強の身ですので、学んで参りたいと存じます。

理事となりましてから、役員の皆様と赤穂市を訪問したり、イタリア大使館での追悼法要を執り行わせていただいたりと、泉岳寺を飛び出して義士に触れる機会を多く頂きました。特に赤穂では牟禮市長を始め、赤穂義士を語り継ぐ志を強く持たれた皆様とお話することができ、伝承の決意を強く致しました。また、赤穂市の浅野家・赤穂義士の菩提寺、花岳寺のご住職である片山老師は、私の大学の先輩であり、阪神淡路大震災のボランティアでご指導いただいたご縁のある方です。再びこのご縁をいただきましたことを感謝申し上げます。若輩者ではございますが、赤穂義士の伝承に勤めて参る所存でございます。皆様のご御支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

理事挨拶

遠藤信夫

中央義士会に入会して十二年、理事に就任してから十年になりました。それ以前は大手旅行会社で旅をテーマにツアーを開発してきました。テーマの一つに歴史があり、忠臣蔵シリーズを企画調査し、これまでに、都内はじめ赤穂市などに点在する様々な史蹟巡りをしてきました。引退後も引き続き忠臣蔵史蹟巡りの案内を続けており、その参加者の中で中央義士会に興味を持っていただいた方には入会してもらっています。その方々は勉強会などに参加されるなど、さらに忠臣蔵を学ばれております。

一昔前までは忠臣蔵が映画やテレビで盛んに放映され、大勢の方々がツアーに参加されていましたが、最近はコロナの影響もあってか、非常に少なくなり、特に若い人の参加が激減しています。理由はいろいろありますが、今できることとして、積極的に忠臣蔵に関する講演会や現地集合型ツアーなどを、旅行会社を通じて毎月実施し、都内から日帰りや一泊でのツアーを定期的に実施できるように、企画立案していく積りです。

私も八十三歳になります。過去の経験を生かし、少しでもお役に立てばと思っています。

その一つが優秀なガイドを養成することで。今までは知識や技術の上に社会一般常識を備え尊敬される人間性を持った人が、参加者から最も人気がありました。いわゆる心技一体です。心が先で知識技術はその次であるということですが、ところが、今日では、それ以外に安全管理の知識（公道でのマナー・熱中症対策・急病の対応・地震・災害対応など）が必要です。それらを研修で学び、資格を得し公認ガイドとして、忠臣蔵のガイドができるようにしたいと思っています。これによって多少でも忠臣蔵に親しみを持つ人々が増えることを願っています。

今後とも暖かいご支援をお願い申し上げます。

理事挨拶

進藤 務

会員みなさまにおかれましては、日頃から本会の運営に関しまして、多大なご理解ご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。理事を拝命しております進藤務

と申します。月日が過ぎるのは早いもので、会員歴は二十年以上になります。

平成二十年十月に中央義士会創立百周年記念の会を東京ドームホテルで開催して、そのお手伝いをしたことをつい昨日のことにように思い出します。たまたま現役時代の勤務先が築地明石町の浅野内匠頭上屋敷跡であったこともあり、元禄赤穂事件に興味をもって忠臣蔵の真実をコツコツと学ばせていただいております。

本会は同好の士の集まりなので、会員同士で元禄赤穂事件や忠臣蔵について、何でも楽しく語り合える雰囲気大切にしたいと考えています。また、会員みなさまからお預かりした会費や寄付金は適正かつ大切に使用させていただきまます。それから本会の今後、将来について懸念していることがあります。ずばり後継者不足です。忠臣蔵、元禄赤穂事件の人氣低迷が続く中でも本会を引き継いで赤穂義士の遺烈を語り継いでいていただきたいのです。

会員みなさまに、忠臣蔵に興味をもつ友人知人の方がおられましたら、ぜひ泉岳寺にお誘いいただきますようお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

泉岳寺と英公使館

― 赤穂浪士を初めて海外に
紹介したミットフォード ―

蟹江 一元

最近の泉岳寺は、外国人の参拝者の方が多くて、どの国・言語圏からの訪問が多いのか、且つ彼らの情報源がどこにあるか、何に興味をもたれているか中央義士会も知っておかねばならない。それもあつて、世界に初めて「ARONINS」を出版で紹介した英国公使館員ミットフォードについて書いてみた。本稿はミットフォードの紹介に合わせて赤穂浪士としている。

イギリス公使館は安政六年（一八五〇）東禅寺（港区高輪三丁目）に置かれ、ラザフォード・オールコックが駐在していた。オールコックは、その著『大君の都―日本滞在日記―』で、東禅寺の庭園など大きな境内を美しいと誉め讃えた。この寺と江戸湾に広がる絶景は素晴らしく海上禅林と称されていた。ところが、当時尊王攘夷運動が吹き荒れ

ており、東禅寺も幕命で公使館を置いたはずが事件に巻き込まれる。翌年には、早くもオールコック付きの通訳小林伝吉が門前で、尊王攘夷派に襲われ殺害された。文久元年

（一八六一）には、水戸藩浪士が寺を襲撃し書記官らの負傷と、襲った水戸藩尊王攘夷派の浪士や警備していた幕府側双方に死傷者が出てしまった。文久二年には護衛役であった信濃松本藩の伊藤軍兵衛が襲撃し、英人水兵が死亡した。こういった騒動で東禅寺の檀家が動揺し、有力な大名が離れる事態となり、これを受けて幕府は各国の公使館をまとめて建設することにし、御殿山用地としての建設を始めた。ところが高杉晋作らの尊王攘夷派の襲撃でイギリス公使館の部分も消失してしまった。慶応元年（一八六五）にオールコックの後任としてハリー・パークスが横浜領事館に着任。パークスの有能なスタッフだったアーネスト・サトウは文久元年に北京のシナ商務部の通訳官から横浜領事館に転任し、アルジャーノン・ミットフォードも慶応二年（一八六六）十月に北京公使館から転任となり、一六日に上海から

横浜に台風の中を船で到着した。宿舎は外国人居留地の海岸通りに決まり、同じ造りの家にサトウと公使館付医官ウリスが住み、三人で公使館村を形成した。

慶応二年に幕府がイギリスの意向を受けて、泉岳寺門前に公使館を建設した。泉岳寺の松林を切り開いた敷地四九三坪に公使館建物と英歩兵や幕府の護衛兵屯所が設けられた。現在の泉岳寺前児童遊園（港区高輪二丁目）がその一部である。攘夷派の焼き討ちを避けるため高輪接遇所と名付けられた。パークスは、江戸に公使館を置きたかったのである。

ミットフォードたちは、横浜大火の数日前その高輪に二、三日宿泊した。同年十一月二十六日に横浜大火があり、ミットフォードたちの借りていた家も焼けてしまい、この接遇所に住むことになる。高い板塀に囲まれ長い木造の建物が二棟あり、一つは公使の居館で、もう一つが職員宿所になっていた。ミットフォードは二等書記官でサトウは通訳官だった。ミットフォードの著作には「建物には暖炉もなく、建付けも悪く隙間風がやたらと入ってくる寒い普請

だった」として日本家屋に不満だった。過度の護衛を嫌い、サトウとミットフォードはパークスの承認で、泉岳寺の塔頭寺院門良院（資料・高輪接遇所・泉岳寺・門良院絵図）を借りることになった。「ここからは、江戸湾の景色が一望のもとに眺められる小高い丘の上にあった。江戸の町は、いずれでは最も美しい場所の一つで、建物も日本芸術の粋を凝らした優美な建物だった」とある。当時、外国人外交官には幕府が、泉岳寺中門の左に屯所を置いた別手組という警備兵を付けていた。この警備兵は新たに特別に募集された身分の低い武士だが、護衛というよりも行動の監視が行われていた。それでも、二人は幕府が定めた境界線の外に住む初めての外国人となった。勿論公使館は、

横浜から派遣された英国歩兵第九連隊が警備をしていたが、門良院は対象外なので別手組だけの警備だった。二人は三食全てを芝車町の万清楼（高輪二丁目）から運ばせ和食で賄っていた。因みに、万清楼は三代目の石井清八の経営だった。

慶応三年（一八六七）にパークスは、横浜山の手の大邸宅に引っ越した。

ミットフォードは、「春になると門良院は鮮やかな新緑に包まれた。そして初夏は美しい若葉に彩られ、さざ波が輝く江戸湾の広がりを目下に見遙かし、汐風にたわんだ老木の木立に囲まれて、住んでいる東屋風の建物はまさに絶品だ」としている。日本に来た当時は、木造建築をあらゆる家と揶揄し、不愉快な印象ばかりだったことからすると雲泥の差である。

この頃には、ミットフォードは日本滞在の意思を固め、日本の歴史・文化に興味を持ち始め、のちに帰国して出版する『昔の日本の物語』の資料を集め始めた。その動機はおそらく切腹（ハラキリ）であろう。この物語の最初に四十七浪人を納め、最後に備前岡山藩の滝善三郎の切腹（神戸事件―神戸三宮神社前で備前藩兵士がその隊列を横切ったフランス人水兵を射殺し、銃撃戦に発展した事件―で発砲を命じたのが滝だった）に立ち会った経験について語っているからである。

この年ミットフォードは、攘夷派の数名に門良院を襲われた。庭の細い道に貝殻を撒き散らし、踏み割ると砕ける音がするよう防衛していた

ところ、ミットフォードがその音で気付き、銃で身構えたので彼らは逃げてしまった。攘夷派の一部は、海外勢に利便を与えるとして泉岳寺を理不尽にも敵視していた。品川の飲み屋街は当時の攘夷派の拠点になり、泉岳寺はあまりにも近過ぎて襲撃の危険性は高かったが、門良院の住居は、「こじんまりとして居心地がよく、働き過ぎて疲労困憊して、朝早く浴衣を羽織り、海原を渡って吹いてくるさわやかな汐風を吸い込むとき、しみじみとした歓喜が湧いてくる。そして、『昔の日本の物語』をコツコツ書きすすめる暇もでき、原稿が次第に枚数を重ねていった」とあり、ここに住むことで赤穂浪士について書いたことが明らかだ。

泉岳寺には慶応四年（一八六八）五月に藝州藩などの倒幕部隊が品川より泉岳寺に来て、翌日、上野戦争（彰義隊）に参戦し勝利すると、その後東北に転戦した。その戦死者墓が義士墓域を出たところにある。ミットフォードはパークスに付いて大阪の公使館に居て風雲急の日本の情勢（鳥羽・伏見の戦い等）を見ていた。パークスは五月に江戸に向かう

がミットフォードは七月に引き揚げて横浜に滞在したあと江戸に入った。主導権争いをしてきたフランスの口ッシユが幕府の崩壊で地位を落とし、パークスは完全に勝利した。明治二年（一八六九）エジンバラ公が日本を訪問し、浜離宮が迎賓館に充てられた。ミットフォードは過労で明治三年（一八七〇）一月一日に、日本を離れて帰国した。なおアーネスト・サトウは明治二年二月に英国に帰国している。

その後、日英同盟締結そして日露戦争の勝利を受けて、英国が明治天皇にガーター勲章授与を決め、それをコンノート公アーサー殿下が携え、巡洋艦で横浜に入港したのが明治三十九年（一九〇六）二月十九日だった。ミットフォードは従兄弟のリースデイル家を継ぎ、リースデイル卿となり、この使節団の首席随員としての再来日だった。横浜港から離日したのが三月十六日なので一か月近くの滞在だった。

二月二十五日にミットフォードは駐日英国大使サー・クロード・マクドナルドと泉岳寺に向かった。ミットフォードが暮らした門良院訪問は、

今回の楽しみの一つだったが、本堂と墓地を残して、住居とした建物はどこにも見当たらず、昔の面影もない無残な姿と化し、手入れがよく綺麗だった庭は全部壊されていた。寺の敷地は売られたのか、貸したのか、昔は花が咲き、木が茂って、華やかだった庭には一面に小さな店が立ち並び、野菜、乾魚、塩漬けの魚、安いお茶やお菓子など、近所の貧しい人々のための粗末な日用品が並べられ、気の滅入るような光景で、すっかり憂鬱な気持ちになりそこを離れた。近代化により古い奇麗な風景が失われ、小さく雑多な日用品店に置き換わったのである。

ミットフォードの著作は七作あり、『昔の（古い）日本の物語1871』『竹の園1896』『北京公使館員1900』『ミットフォード日本日記 英国貴族の見た明治1906』（日本へのガーター勲章使節団）『石の悲劇1912』『回想録1915』『続回想録1917』である。この『昔の日本の物語』に最初に登場するのが四十七浪人（THE FORTYSEVEN RONINS）で、赤穂浪士を初めて海外で紹介したことになる。なお、『仮

名手本忠臣蔵』は、早くから中国に伝わり出版されていたことが明らかだが、実話は紹介されなかった。その紹介は次の文から始まる。「十八世紀の初め、播磨国に赤穂城主浅野内匠頭という大名が居ました。帝の宮廷から勅使が將軍に派遣されるころだった。江戸では内匠頭ともう一人の貴族の亀井様が、その使者を迎えて饗応する役に任命された。また、

その際に守るべき適切な儀式作法を彼らに指導するため、吉良上野介という幕臣の高官が任命された」(筆者訳文)と、浅野内匠頭とともに勅使饗応役を拜命したのが亀井となっていて情報の交錯が見られる。『仮名手本忠臣蔵』の影響もあるが、英語で読む方は、アマゾン Kindle 版で安く入手できる。勿論、本もアマゾンの印刷版が入手可能。

元禄赤穂事件については、彼が二月二十五日曜日に泉岳寺を訪れたときに、既に自著で紹介したがと、したうえで簡潔に記している。以下、少し長くなるが、筆者の思い入れを排除して、英国に伝わった内容を理解して戴くため、長岡祥三が訳した『ミットフォード日本日記英国貴族の

見た明治』の文章を転載する。草履の紐を結べとの浅野への命令が発端というのは、他の話との混同があるようだが、伝わり方は面白い。

「將軍の御殿では朝廷からの使者を迎えるところであった。芸州藩の分家で貴族であった浅野内匠頭は、使者を接待する役に任命された。幕臣吉良上野介が儀式が恙なく執り行われるように浅野を指導すべく特命を受けた。吉良は欲の深い墮落した男で、賄賂を受け取るのが常であった。浅野公が吉良を十分満足させるほどの贈り物をして機嫌をとらなかつたので、吉良はありとあらゆる侮辱を何度も浅野に加えた。しばらくの間、浅野は吉良の傲慢な態度をじつと我慢していたが、ついに吉良が草履の紐を結べと浅野に命じた時、彼の長い間の忍耐も限界に達した。浅野は刀を抜いて追いかけて、彼を苦しめてきた吉良に傷を負わせた。城中で、このような事件を犯したために、彼は罰として自決を命ぜられた。彼自身は死を宣せられ、彼の一家は断絶の判決を受けた。幕府の法律は、英国の法屋院(専断不公平で有名だった民事裁判所)の法律よりもさらに

厳しかったのである。ひそかに雪辱を期した大石内蔵助と、その一党が、疑惑の目を逃れて吉良の警戒を解くため、長い月日の間散らばって隠れていたが、主君の受けた恥辱をすすいだのは一七〇二年のことだった。彼らは、その行為によって死を命ぜられ、勇敢な男らしく自らの手で切腹を遂げた。この悲劇的な物語は伝奇的な事件と不思議な興味あふれる物語で、戯曲にもなつて人気を博している。この物語は日本のあらゆる男や女や子供たちによく知られている話である。敵討ちは新しい思想の誕生と法律による武器の携帯禁止によつて消滅したが、彼ら四十七士の思い出は常に変わらず追慕され、その墓は神様と同じような尊敬を集めている。封建時代の騎士道精神や詩歌から何世紀も隔てられた我々にとつて、これらの事柄は遠い昔のこと

昔の夢ではなく、彼らが大切に先祖から受け継いできた忠義と愛国の精神の中に、現実に新しい形で生きているのだ。この炎が消えるのは、ずっと遠い先のことだろう」と、このように語っている。現に新しい時代に対応しつつも、この炎は現在も続いて中央義士会はその中核を担っている。続いて明治の時代における日本人の四十七士に対する追慕について語る。

「四十七士が、主君を辱しめて主家を断絶させた男に復讐を行つてから、二百年以上もたつているが、その墓所は昔から変わらず神聖な場所とされ、この忠義な武士たちの記憶は今も生き生きとしている。毎日のように人々が参詣にきて、花を供え、線香を焚き、墓前に名刺を置いていく。給料の少ない貧しい兵卒も、老婆や小さい子供たちも、サムライや職人や百姓たちも、皆がこれらの勇士たちの胸に激しく燃え上がった昔の日本の精神に対し、敬意を込めて何かよいお供え物をするために、小銭を一、二枚喜捨するのである」

昔から神聖な場所だったかは別にして、明治時代の泉岳寺の状況が見

えてくる。

ミットフォードはこの日本訪問で四十七士に関係する体験をした。一つは、浅野侯爵の嫡男に会い、大石の次男の系統の子孫が今に至るまで侯爵の家来として仕えているのと、会わせてくれる話だったが実現できなかったのは残念だということ。もう一つは、京都での宴会の席で弾き手の芸者の話として、大石内蔵助が復讐の計画を企んだときの住居が、今自分が住むところなのを誇りに思っていて、ミットフォードが四十七人の物語を翻訳したことを告げると、とても喜んだと書いてある。

門良院は元禄十五年十二月十五日に赤穂浪士が泉岳寺に着いた情景を『門良院物語』に残した。墨田区緑図書館の所蔵となっているが、内容は発表されていない。ミットフォードの再来日後、廃寺となっていて、わずかに四、五軒の檀家の墓所が残るのみとなっていたのを梅庵白純和尚が譲受け仏殿を立てて桐ヶ谷寺を起こした。昭和三十年（一九五五）に品川区小山の現在地に移転し曹洞宗の門良山桐ヶ谷寺として平成十五年（二〇〇三）に建てた本堂のもとに檀

家数も数多い寺院となっている。平成二年（一九九〇）に御殿場の富士霊園に墓地を設け、高輪の門良院墓地にあった会津藩士墓の数基が存在している。

(参考文献)

ヒュー・コータツツイ(中須賀哲朗訳)『ある英国外交官の明治維新ミットフォードの回想』中央公論社1986

Mitford's Japan 1985

アルジャーノン・ミットフォード(長岡祥三訳)『ミットフォード日本日記 英国貴族の見た明治』講談社学術文庫2001(『英国貴族の見た明治日本』新人物往来社1986)

The Garter Mission to Japan 1906

アルジャーノン・ミットフォード『昔の(古)日本の物語』

Tales of Old Japan [THE FORTY SEVEN RONINS] 1871 Kindle 英語版有り

アーネスト・サトウ(坂田精一訳)『一外交官の見た明治維新』岩波文庫1960

A Diplomat in Japan 1921

ラザフォード・オールコック(山口光朔訳)『大君の都―幕末日本滞在記―』岩波文庫1962

The Capital of the Tycoon 1863

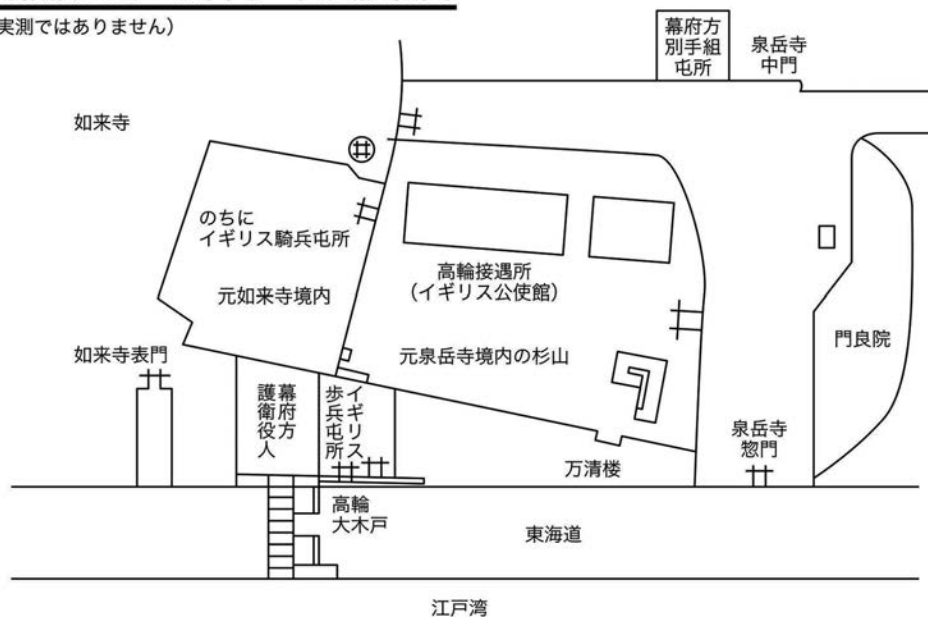
江戸の外国公使館・港区立港郷土資

料館2005
港区立港郷土資料館『資料館だより第77号』「石井家資料 明治期の区内商家の経済活動・小緑一平」2016
港区史通史編近世・港区2021

高輪接遇所・泉岳寺・門良院絵図

(実測ではありません)

(東京大学史料編纂所蔵絵図より蟹江元作成)



大名庭園調査発表会に出席して

進藤 務

令和5年7月20日、九段下のイタリア文化会館で開催された「大名庭園調査発表会」に柿崎理事長と出席いたしました。これは3月のイタリア大使館訪問に関連して庭園の調査を大学研究者が行ったので中央義士会にも参加してほしいというイタリア大使のご招待を受けたものです。貴重な機会を与えて下さったベネデッティ駐日大使にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

会場に入ると大使と同じ最前列に名前が貼られた座席が用意されていてイタリア大使館における中央義士会の扱いのレベルの高さを実感、大変恐縮いたしました。

発表会は、最初にベネデッティ大使のご挨拶および日本とイタリアの歴史解説から始まりました。主な内容は、日本とイタリアは、慶応2年8月日本イタリア修好通商条約が締結され国交が樹立、条約締結署名した場所が軍艦マジエンタ号で、その条約は国立公文書館に保管してあることなどの説明がありました。その後両国の関係は順調に発展進化して

岩倉使節団がローマ、フィレンツェ、ナポリ、ベネチアなどを訪問。イタリア大使館が三田に設置されたのは昭和4年からで、ベネデッティ大使が就任されて以来、「日本庭園の調査はとても大切に庭園は都心に隠れた宝であると言つても過言ではない。大使館として庭園を保存修復することが当面の大きな目標で素晴らしいお庭を多くの方々にも見ていただきたい」とのご挨拶がありました。

その後、法政大学陣内秀信教授はじめ8人の大学研究者から庭園の調査結果について詳細な発表がありました。現在のイタリア大使館は、江戸時代伊予松山松平家の中屋敷で古地図を比較検討したところ、回遊式庭園で当時武士の訓練施設としての場、馬場があり、太鼓橋に藤棚、池には和船が浮かべられ池を東西に分断する堤のようなものもありました。明治初期の大使館敷地図には松方正義の敷地になったことが記載されています。明治6年敷地図にも築山、馬場があり明治20年頃には和館と滝が新設、南側丘の上に茶室がありました。現在赤穂義士切腹の石碑が建っている場所です。明治38年にはジョサイアコンドルの設計によって洋館が建てられました。しかし、その後建物は戦災によって消失、昭和40年に現在の公邸が完成しました。

今後大名庭園の調査研究を進める過程において、大石主税、堀部安兵衛等、赤穂義士十名が切腹した正確な位置の特定につながることを大いに期待しております。



大学関係者のシンポジウム

赤穂義士墓域ガイド

柿崎輝彦

泉岳寺様からのご依頼を賜り、赤穂義士墓域にて参詣者を対象に当会で、ガイドを実施することになりました。勉強会などを通して中央義士会会員を対象に案内者を募ると、多くの方にご賛同いただき、早々にガイドンスを開催すると、二日間で約二十名以上の方が参加されました。併せて通訳の出来る方を探したところ、ご紹介などで七月の開始時には三名（現在は五名）の英会話堪能者にご協力いただくことになりました。

先ず、想定していた以上に世界中の広範囲から訪れていること、義士墓域参詣の動機が一樣ではなく人それぞれであること、且つ情報源が様々なことが特筆されます。あくまでも、ガイドをした方からの情報だけですが、これまでに二十カ国以上の参詣者を確認しております。



ガイドの様子

また、七月のガイド開始と同時に、日本語と英語表記の赤穂義士墓参記念カード（名刺サイズ）をそれぞれ配布しており、これが大変好評を博しております。



日本語カード 上段 表 下段 裏

英文カード 上段 表 下段 裏

福本日南墓前法要

荻原 栄

九月二日に泉岳寺の福本日南の供養墓前にて、福本日南没後百年の法要を行いました。泉岳寺松根大地住持による読経が行われ、続いて焼香と進みました。参加者は理事と評議員の一部に限らせていただきました。暑い中でしたが、荘厳な中で法要は執り行われました。



墓前での法要

九州の義士関連史跡を訪ねて

柿崎輝彦

令和五年九月中旬、松岡専務理事、京都支部長能瀬理事、播州赤穂支部目木顧問の四人で九州に点在する元禄赤穂事件に関連する史跡を訪ねた。

博多駅で合流すると、早速レンタカーに乗り込み、最初の目的地崇福寺を目指した。

ここは中央義士会の起源とするところで、大政奉還まで続いた福岡城主黒田家の菩提寺でもある。博多駅から車で5分程の福岡県庁の直ぐ西側に位置する。明治四十一年（一九〇八）十二月十四日に当会創設者福本日南（本名 福本誠）が本堂において約三百人を前に元禄赤穂事件に関する講義をした所縁の地である。

傍から見ると本堂は荘厳な風格を漂わせ、広大な境内の奥には歴代城主らの墓地がある。隣接する一般墓域にも立派な墓が多く見られ、中でも初期の玄洋社を率いた頭山満や高場乱を配する玄洋社墓域が一際目を引いた。

次に向かったのは、大石内蔵助の京都での妾可留（軽、梶）の子とされる大石良知の墓である。

博多から直線で西に約60km離れた焼き物の街として有名な伊万里（佐賀県）から松浦西九州線で最

初の川東駅近くの小高い岡にその墓地はあり、墓の傍らに由来が記されているものの、周辺に案内看板は一切見当たらない。



大石良知の墓



大石良知と藤田家の由来

『お可留の子とされる』といった曖昧な表現になったのは、可留は討入り前の元禄十五年に確かに大石の子を身籠もったようではあるが、その後出産したとの確かな情報は存在しない。もしも無事出産していたとしても勿論性別は不明である。

伝承によると、良知は大坂屋吉兵衛と称し諸国流浪の末、父の恩師山鹿素行のご子孫と所縁のある平戸（長崎）を目指すなかで伊万里に辿り着き、地元の薬種商藤田家に世話になる。ところが、約三年足らずで体調を壊すと、亡くなる直前自身は大石内蔵助の忘れ形見だと打明け、宝暦三年（一七五三）十月二十六日不帰の客となる。享年五十二歳、

年齢については辻褃が合うものの、良知が歩んだのは仮名手本忠臣蔵以前の時期であり、遺族等に対する連座の罪は解かれたとは言え、彼等の遺徳に対して身内が積極的に発言するのを遠慮していた時代である。地元で伝わるこの一方的な僅かな拙い情報をして全面的に事実認定するのは難しいが、これまで大石内蔵助と可留の子どもであることを名乗り出したのはこれまで唯一良知だけであり、今後出てこないであろう事を踏まえると、以降新たな事実や異なる証拠が出てこない限り、あくまでも伝承としつつ、良知の証言を全面的に認定しても良いのではないかと考える。

次を目指したのが、寺坂吉右衛門の墓と伝わる八女（福岡県）の一念寺。

寺務所に挨拶し墓の場所を確認すると、本堂脇の道を入った正面の上にあるとのこと。かなりの雑草が生い茂った石段を上ると平地が開け、中央に一基の墓石と案内板が見える。ところが案内板の文字は殆ど擦れていて読めなかつたので、墓に関する詳しい経緯や謂れについては、後日一念寺に問い合わせることにした。

日も暮れ始め、九州初日の最終目的地山鹿（熊本県）へと車を走らせた。

宿に到着するや、山鹿支部長の宮川理事はじめ平成堀内組の有志の皆様方の歓迎を受け早速懇親会を開始。美味しい料理やお酒と共に楽しいひと時を共有させて頂き友好を深めた。御同席頂きました皆様方、その節は大変お世話になりました。



伝寺坂吉右衛門の墓 一念寺

翌朝、宮川支部長のご案内で名刹日輪寺を訪問。日輪寺は、討入後大石内蔵助等十七名を世話した細川家臣堀内伝右衛門の菩提寺で、境内には本人が直接貰い受けた十七名の遺髪を埋葬した遺髪塔があり、傍らには堀内伝右衛門を讃える顕彰碑が建立されている。



山鹿支部参加者一同



遺髪塔

堀内伝右衛門ご夫妻の墓前で手を合わせた後、本堂において山鹿支部が毎月開催している定例の勉強会に参加させて頂き「討入口上書と萱野三平遺書」についてお話しさせて頂いた。質疑応答の質の高さもさることながら、参加された方々の真剣な眼差しが強く印象に残った。昼時となり、本堂横の風流な佇まいの「とき処 南無」に場所を移し、ご住職自らがご用意されたご自慢の精進料理に舌鼓を打った。午後は宮川支部長のご案内で地元出身の軍神松尾敬宇氏の墓参後に生家を訪ねるなど貴重な体験をさせて頂いた。

翌日は熊本市立花園小学校を訪ねた。細川家ではお預かりした大石内蔵助等十七名のために当主綱利公が新調させたとする手水鉢を見学した。



堀内伝右衛門の墓



手水鉢

細川家の家臣が自邸で愛用するために船で熊本まで運び出し、その後いくつかわの変遷を経て花園小学校に寄贈されたもので、細川邸にお預かりの大石等は毎日この手水鉢に清水を汲み入れ、手を洗う口をそそいだと言われている。見学の途中校長先生がお越しになり、この場所は「洗心園」と名付けられ、現在もしっかりと維持保存管理されているなど貴重なお話しを伺うことができた。

心温まるお話しに触れた後は勢い南下し、鹿児島県北西部に位置する出水市に車を走らせた。米ノ津駅から東に少し行った墓地に寺坂吉右衛門とされる墓がある。やはり周辺に案内看板は見当たらず、知る人ぞ知る史跡のようである。墓地中程にある墓の傍らには「伝・寺坂吉右衛門の墓」（出水市教育委員会）の説明板が建ち、そこには本名ではない山石衛門を名乗り地元若者達に文武の道を

教え、享保十一年（一七二六）この地で寂しく没すると、彼の門弟等によって墓碑が建立されたところ。しかし、実在した四十七士の寺坂吉右衛門は、延享四年（一七四七）に江戸で没し、麻布曹溪寺（東京都港区）に葬られている。



伝寺坂吉右衛門の墓

九州での最後の訪問地は、高輪泉岳寺の赤穂義士墓域を模した一画を有する興宗禅寺（福岡市南区）である。

境内に観音菩薩が彫られた岩屋があることから地元では通称穴観音として親しまれている。一方で昭和初期に赤穂義士の忠義忠誠心に感銘を受けた地元の篤志家の寄進により義士墓域が復元され、義士の寺としても知られている。

境内奥には、泉岳寺義士墓域への参道を模した「血染めの石」「首洗いの井戸」「義商天野屋利兵衛顕彰碑」が並び、さらにその奥に赤穂義士墓域がある。毎年十二月十四日には義士祭が営まれ、義士墓前での法要、献茶、筑前琵琶の演奏、境内では蕎麦や粥が振る舞われ、黒田藩の砲術「陽流抱え大筒」が披露されるなど、思いのほか盛大な義士祭が開催されている。あらためて篤志家の偉績に敬意を表し義士墓に頭を垂れた。

他に長崎県五島列島のひとつ久賀島にも寺坂吉右衛門と伝わる墓がある。赤穂義士所縁の地を巡られる方が意外と多いと聞く。九州方面にお立ち寄り際には是非参考にされたい。



興宗禅寺

浅野内匠頭長矩と

赤穂義士の気持ち

松岡康彦

赤穂義士の討ち入り迄の気持ち、四十七士それぞれであることは皆様ご承知のとおりであります。今回は公認心理師と精神保健福祉士から見立てた私なりの推察を語ります。

一 番先にお話したいことは5万石の殿様である浅野内匠頭長矩がなぜ故に松之廊下で刃傷に及んだのかを考えた時に、もしも、武士として恥をかかされたあの場面で、武士の面目を重んじず刃傷に及ばなければ、末代迄播州赤穂の殿様は恥をかかされてもじつと堪える腰抜け大名と言われていたでしょう。勿論のこと、殿様とともに家来たちも同様に扱われていたことでしょう。以後、赤穂の武士は、浅野の家臣は生涯腰抜け者と言われ続け、武士の面目は丸潰れだったわけです。正しく末代迄続く風評被害です。

浅野内匠頭長矩に対して殿様としての自覚が足りず、精神的に問題があったと恰も真実であるのかのように言う人がおりますが、カルテも残されていないことから、何を根拠とするのかが不明で、全くいい加減な発言と言えます。

次は赤穂義士の中で一番好きだと言う人が多い大石内蔵助良雄です。

赤穂市御崎地区に「補陀山正福寺」があります。ここには播州赤穂城空け渡しの時に、内蔵助が良雪和尚に贈った3段のお菓子箱とその書状が保管されておりです。お城を明け渡す際に内蔵助の万感の思いを込めた品です。二人の交流は「二良の交わり」として伝承されておりますが、討入りの決断に至る言葉として「君辱臣死」を内蔵助に話したのも良雪和尚とされています。両者の関係には人間味溢れる大石内蔵助良雄の一面を顧みることができます。

さてさて皆様の一番人気はなんと言っても堀部安兵衛武庸ですね。

浪人して新潟新発田から江戸に出てきた侍が、剣術を活かしてご存知高田馬場の決闘で名を馳せ、大名にも知られる存在となり、浅野家家臣堀部弥兵衛の娘との養子縁組が成立するや、義父の主君である浅野内匠頭長矩公から直々に200石で馬廻役を拝受。しかも中山姓のまままで良いとお墨付きまでもらいます。彼は浅野家改易後「江戸急進派」などと称され、一貫して主君の仇討ちに前のめりでしたが、それにはそれなりの理由が存在します。

敢えて例えたとすれば、非正規雇用で月給18万円だった人が、いきなり年俸2,000万円が我が社に来て欲しいと社長から直々に雇われたらどうで

しょうか。浅野家家臣となった安兵衛が殿様に強い恩義を感じ、事件後仇討ち一筋にひた走るのも当然のことのように思えます。「江戸急進派」と言うより私は「殿様恩義派」と名付けたいです。

矢頭右衛門七教兼は大石主税良金に次いで若い義士でした。

17才の若さで父の遺言を聞き入れ、殿様のために討ち入る気持ちになるのは難しいですが、「内発的動機づけ」で討ち入りに参加したことは間違いのないものと考えます。

心理学では、人のやる気を起こすには「外発的動機づけ」と「内発的動機づけ」があります。貧しい生活を強いられた若武者であるにもかかわらず討ち入りに加わったのは「内発的動機づけ」そのものと言えます。これは四十七士全員に当て嵌まりません。「外発的動機づけ」は例えば給料アップするの働く。ゲームを買ってもらえるので勉強するなど外からの力が活動の原動力となります。それに対して「内発的動機づけ」は自分自身の内から湧いてくる力が活動の原動力となります。赤穂義士四十七士の討ち入りの原動力は、正に心身から湧き出る武士としての面目、恩義、忠義、忠誠心からです。

心理の側面から赤穂義士を見立てて書きました。彼等の武士としての「潔さ」と「琴線に触れる思い」を末代迄語り継ぎたいのが私の心底からの願いです。

忠臣蔵講座のお知らせ

荻原 栄

これまで「月一勉強会」として、勉強会を開催してきましたが、来年から「忠臣蔵講座」として、再出発いたします。

令和6年は「元禄赤穂事件のポイント」として、刃傷事件や討入りなどに至る、人物やターニングポイントとなる出来事などを解説していきます。

[開催場所] これまでと同じ港区泉岳寺講堂です。

[日時と内容]

1回目 令和6年2月25日(日) 14:00~16:00 (時間は延びる可能性があります)

「勅使饗応役」

- ①饗応役拝命
- ②吉良上野介の京都行き
- ③吉良上野介の財政状況

2回目 令和6年4月7日(日) 14:00~16:00 (時間は延びる可能性があります)

「刃傷事件」

- ①吉良上野介と浅野内匠頭との確執
- ②勅使伝奏屋敷に入る
- ③早駕籠走る

3回目 令和6年6月2日(日) 14:00~16:00 (時間は延びる可能性があります)

「赤穂城明け渡し」

- ①明け渡し時のさまざまな事件
- ②幕府への脅迫状
- ③大石内蔵助の真意
- ④親戚大名・旗本はどう動いたか

4回目 令和6年8月4日(日) 14:00~16:00 (時間は延びる可能性があります)

「討入り その1」

- ①綿屋善右衛門の援助
- ②討入り日の探索

5回目 令和6年10月6日(日) 14:00~16:00 (時間は延びる可能性があります)

「討入り その2」

- ①萱野三平と討入り口上書
- ②寺坂吉右衛門は逃亡したのか

[参加費]

- ・会員 1,000円/回 5回分一括払いの場合 4,000円
- ・一般 1,500円/回 5回分一括払いの場合 7,000円

[申込]

下記宛てに郵便局から青色の払込取扱票で、通信欄に参加者氏名と参加日を記入の上参加費をお振り込み下さい。

中央義士会 00250-9-139100

また、下記のメールまたはFAX、架電にてもご連絡下さい。

メール chuogishikai@asahi.email.ne.jp TEL/FAX 03-3630-1927

忠臣蔵愛好会のご案内

赤穂義士引揚げルート歩く

恒例の「赤穂義士引揚げルート歩く会」を下記要領にて開催いたします。
中央義士会が長年検証してきた結果、より史実に近いコースを歩きます。
参加者は全員トラベルイヤホンを着装し歩きながら説明を聞き、昼食もセットされている安心
快適なツアーとなっております。是非ともこの機会にご参加くださいませ。
尚、昼食会場の都合上、お申込み受付は先着60名様までとさせていただきます。

- 日時：令和6年1月28日（日） ※雨天中止、小雨決行。
集合：9時00分 JR総武線 両国駅 西口改札付近
出発：9時30分 時間厳守
16時00分 泉岳寺到着予定
- ルート：両国駅 ～ 永代橋 ～ 築地本願寺 ～ 田町 ～ 泉岳寺 約12km
- 主な立ち寄り地：（途中、随時トイレ休憩をとります）
 - ①吉良邸跡（本所松坂公園）
 - ②播州赤穂浅野家上屋敷跡（聖路加国際大学）
※昼食休憩（予約済み会場）
 - ③西本願寺（築地本願寺）
 - ④陸奥仙台松平家上屋敷跡（日本テレビ）
 - ⑤高輪泉岳寺
- 説明：中央義士会会員
- 会費：4,300円 ※昼食代含む
当日、別途資料代徴収（コピー1枚につき10円）
- 申込：中央義士会メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp、
または090-2385-3224（柿崎の携帯）にショートメールにて
参加者氏名と携帯番号を通知し、受付確認（中央義士会からの返信）後に、会費を下記宛に
郵便振替（青色の払込取扱票）にて振り込んで下さい。

中央義士会 00250-9-139100

振替用紙の通信欄には「1月28日忠臣蔵愛好会」とご記入下さい。

参加申込（振込み）期限は1月18日（木）といたしますが、参加申込者数が定員の60名に
なり次第、受付は終了させていただきます。

- その他：お申し込み後、欠席される場合は、下記メールまたは携帯に連絡をお願いいたします。
欠席された場合、会費の払い戻しはいたしません。

企画協力 中央義士会 後援 NPO法人忠臣蔵倶楽部 ・ 全国義士会連合会
企画実施 株式会社阪急交通社

メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

当日連絡先 090-2385-3224（柿崎）

令和5年 中央義士会 業務報告

進藤 務

年 月 日	項 目	備 考
R5.1.15	案内状等発送作業	田町 リーブラ
1.22	臨時理事会	泉岳寺 講堂
1.22	第130回勉強会	泉岳寺 講堂
1.19	テレビ取材（三山ひろしの学問のす々め 2月25日放映）	泉岳寺、大石等切腹地（細川邸跡）
1.29	引揚げルートを歩く会	都内
2.4	赤穂義士321回忌法要	泉岳寺 柿崎理事長他4名参列
3.12	臨時理事会	泉岳寺 講堂
3.12	浅野内匠頭追憶の集い 323回忌法要	泉岳寺
3.13	イタリア大使館訪問・法要	柿崎理事長他9名
3.26	桜泉会	都内 大手町他
4.1	切腹地公開	大石等切腹地（細川邸跡）
4.2	臨時理事会	泉岳寺 講堂
4.2	第131回勉強会	泉岳寺 講堂
4.17～19	京都・赤穂訪問	柿崎理事長、松岡常務理事、能勢理事
5.28	臨時理事会	泉岳寺 講堂
6.3	イタリア共和国建国記念レセプション訪問	イタリア大使館 柿崎理事長
6.4	役員会	泉岳寺 講堂
6.4	第132回勉強会	泉岳寺 講堂
7.2	臨時理事会、会報発送作業	田町リーブラ
7.2	赤穂義士墓域ガイドのためのガイダンス	泉岳寺 12名参加
7.9	赤穂義士墓域ガイドのためのガイダンス	泉岳寺 11名参加
7.20	イタリア文化会館にて大名庭園研究調査発表会	柿崎理事長、進藤理事
8.6	臨時理事会	泉岳寺 講堂
8.6	第133回勉強会	泉岳寺 講堂
9.2	福本日南命日法要	泉岳寺 柿崎理事長他9名
9.2	臨時理事会、赤穂義士顕彰碑設立委員会	泉岳寺 講堂
9月中旬	九州山鹿支部訪問並びに史跡探訪	柿崎理事長、松岡常務理事、能瀬理事、目木赤穂支部顧問
10.1	第134回勉強会・臨時理事会	泉岳寺 講堂
10.8	12月14日赤穂義士追憶の集い発送作業	田町リーブラ
10.19	全国義士会連合会総会	泉岳寺
10.20	全国義士会連合会バスツアー	都内（赤穂義士関連史跡巡り）
11.5	臨時理事会	泉岳寺 講堂
12.3	臨時理事会、会報発送作業	田町 リーブラ、泉岳寺 講堂
12.14	赤穂義士追憶の集い 会報 No75 発行	泉岳寺、編集委員会
毎月（除く12月）	泉岳寺講談会（14日）お手伝い	泉岳寺 講堂 坂藤評議員他
毎奇数月	泉岳寺浪曲会（第3日曜日）お手伝い	泉岳寺 講堂 坂藤評議員他
土日祝（7月～）	泉岳寺義士墓ガイド	泉岳寺 赤穂義士墓域

全国義士会連合会総会行われる

令和五年十月十九日に、三十年ぶりの全国義士会連合会総会が泉岳寺において行われた。

全国の義士会九団体から三十三名の方がお集まりになられた。参加団体は、北から、北海道義士会、笠間義士会、京都山科義士会、京都義士会、大阪義士会、赤穂義士顕彰会、赤穂義士会、NPO 法人忠臣蔵倶楽部、中央義士会である。また、新潟から武庫会の方々がオブザーバーとして参加された。なお、このうち、京都義士会と大阪義士会は、ご都合により欠席。挨拶の代読と紹介を事務局にて行わせていただいた。



全国義士会連合会総会 泉岳寺庫裏において

まず、泉岳寺本堂において法要。その後、庫裏二階に移り総会。総会では会長挨拶、加盟義士会毎に活動内容の紹介並びに今後の活動等が発表された。その後、講堂に移り余興の浪曲会。夜は更に新橋に会場を移して懇親会を開催した。翌二十日は、大型バスをチャーターし、都内忠臣蔵関連連史跡を巡った。

じつに、三十年ぶりの総会は盛会で、全義連加盟団体の方々の親睦が図られ、今後の協力体制構築に向けての一步が踏み出せた。

なお、詳細は来年発行の全国義士会連合会会報でご報告する。

(事務局)



浪曲会 国本はる乃さんの浪曲 泉岳寺講堂において

新入会員

地区	芳名
杉並区	石東陽子
京都市	河上正昌
新宿区	日下部晴彦
文京区	小関新人
北葛飾郡	高安博美
大田区	豊島総一郎
大田区	栃木彩来
新宿区	長戸路瑞木
京都市	能瀬英和
岡山市	橋本光則
港区	長谷川美佳
中央区	原弘美
習志野市	福嶋博
千代田区	藤井翼
大田区	藤崎敏之
江戸川区	松根健介
赤穂市	矢野英樹
日高市	山田喜美子
大田区	湯原玲奈

編集後記

三十年ぶりに全国義士会連合会総会が行われた。全国九団体から、三十三名が参加された。久しぶりの開催のため、まずは顔合わせと親睦が中心となったが、大変有意義であり、今後も忠臣蔵を広めるため一致協力していくことが確認できた。全国的な活動に弾みがついたと思う。

今年の七月から、泉岳寺の赤穂義士墓域において、ガイドを開始した。泉岳寺様のご要望により、土日限定ではあるが、義士墓に詣でる方々に説明を行っている。今年はコロナ明けもあって、外国からの参拝客が多くなった。歴史としての赤穂義士の討入りは、海外でも評判になっているのである。

イタリア大使館主催の行事に、当会も何度か参加させていただくようになった。大使館は大石主税など十名の義士を預かった、松山松平家の屋敷跡である。その庭園がほぼそのまま残っていて、大学の研究者により学術調査が行われている。主税たちが切腹した位置などの詳細が分かることを期待したい。

編集 荻原 栄
校正 柿崎輝彦 進藤 務
印刷 上原益雄 蟹江 元
(株)正大印刷社